

CIP Newsletter

ニュージーランド出身香取市国際交流員
花田サミュエル卓也（サム）

祭りシーズンが 始まりました！

最近はお祭りに関することを書いていなかったのですが、今月のニュースレターでは、最近行われた特別曳き回しについて、私の体験やいくつかの面白い気づき、そしてニュージーランドのお祭りと似たようなことについて少し紹介したいと思います。

多くの方はすでにご存じかもしれませんが、今年のゴールデンウィーク中には、佐原の大祭に参加する8つの町内が、それぞれ節目のお祝いをしたり、山車の新しい仕掛けの試運転を行ったりして、祭り本番に向けた準備を進めていました。私が夏の祭りに参加している下仲町では、新しい山車蔵の完成を記念して、4月29日に曳き回しを行いました。自分たちの町内に山車蔵ができたことで、準備や片付けが格段にしやすくなりました。当日は天候にも恵まれ、特別曳きも無事に終わりました。今年で山車を曳くのは3年目になりますが、毎回新たな発見や体験があります。



ニュージーランドのクライストチャーチには、佐原の大祭のようなものはありません。一番近いものといえば、毎年、行われるクリスマスパレードしか思い付かないです。そのパレードでは、クリスマスをテーマにしたさまざまなフロート

（山車のようなもの）が車でけん引されます。何度か見に行ったことはありますが、特に強い思い出に残っていません。こうしたパレードは、12月ごろになると全国各地で開催され、確かにお祭り気分を盛り上げてくれるものですが、日本の祭りが持つような歴史的・文化的な深みはあまり感じられません。

下仲町の曳き回しの時に、フランスからの観光客とお話しする機会がありました。彼が、「日本以外ではこういった行事を本当に見たことない」と言っていたのがとても印象的でした。また、「自分の地元（フランス）とはまったく違って、佐原のコミュニティが強くて羨ましい」とも言っていました。

佐原の大祭で特に印象に残るのは、佐原囃子のリズムに合わせた手踊りです。ニュージーランドの「ポリフェスト」や「パシフィカ」というイベントを思い出しました。これらの祭りは、ニュージーランドの豊かな太平洋文化を反映しており、マオリやその他のパシフィカ系コミュニティが集まり、ダンスや音楽、料理などを通じてそれぞれの文化を紹介する場となっています。日本の祭りと同様に、これらのイベントもエネルギーと伝統にあふれていて、何よりも「アイデンティティ」と「コミュニティ」を祝う空間を作り出しているところが共通していると感じます。



母校のポリフェストチーム

<https://www.cathcollege.school.nz/student-information-1/extracurricular-2>

ニュージーランドの祭りや佐原の大祭は、地理的にはまったく異なる場所で行われていますが、「文化的アイデンティティ」や「伝統」を祝うという点では、多くの共通点があります。見えるもの、聞こえるもの、そしてスタイルはそれぞれ違っていても、そこに生まれる喜びや人とのつながりは、世界共通のものだと感じます。もしニュージーランドを訪れる機会があれば、ぜひ伝統的なマオリのパフォーマンスをご覧になってみてください。きっと心に残る体験になるし、佐原との共通点や違いが分かると思います。

FacebookやInstagramで香取市での生活や観光、ニュージーランドの文化など英語と日本語で発信しています。見ていただけたら嬉しいです。これから他のことも挑戦してみたいと思っているので、英語・企画・お手伝いでも何かあれば、是非Facebook・Instagram・3階の商工観光課にてお声掛けください。

